

平成23年度 第1回
キャリアパス講演会&相談会

要旨集

日時：平成23年11月22日 14:30～

場所：講演会 理学部3号館11番教室

相談会 理学部2号館第1会議室

キャリアパス講演会&相談会

理学部 基礎化学科
理工学研究科 基礎化学コース

日時：平成 23 年 11 月 22 日 14：30～

場所：講演会 理学部 3 号館 11 番教室、相談会 理学部 2 号館第 1 会議室

【講演会】 14：30～17：00

- (1) 宮北 康之 氏 (2006 年博士修了、中林研)
特許業務法人エム・アイ・ピー 勤務
「弁理士という道を選んで」
- (2) 恩田 馨 氏 (2009 年修士修了、杉原研、)
ミネベア株式会社 勤務
「キャリアパス ～将来への助走～」
- (3) 木挽 あゆみ 氏 (2004 年修士修了、中山・杉原研)
株式会社東芝 勤務
「プラスになる転機」

【懇談会】 17：00～19：00

要旨

私は、埼玉大学で博士号を取得し、特許権などの知的財産権を取り扱うプロフェッショナルである弁理士という職業に惹かれ、現在所属している特許事務所に入所し、所長弁理士および先輩弁理士の指導の下、特許技術者というキャリアを積んでまいりました。そして、2010年に念願の弁理士試験に合格し、現在弁理士としてのキャリアを歩み始めたところです。

理工学系に進んでこられた皆様には、研究職や技術職にあこがれている方が多いのではないかと思います。私を含めて特許事務所に勤務する弁理士の主たる業務は、企業等のお客様からの求めに応じて、そのような研究者・技術者の方が生み出したアイデアを守るために、不備のない書類に仕上げ、特許権を取得するためのお手伝いすることです。お客様の事業活動およびビジネス上の利益の保護をサポートする、いわば黒子的な存在です。弁理士は、お客様の利益を守るために、研究開発の最先端、法改正、外国法制度にキャッチアップするため、法律的、技術的専門性を日々磨き続けていくことが求められ、研究者・技術者とは少し違ったかたちの専門性が求められる職業です。

本講演では、理工系の人材に広がる多様なキャリアパスのうち、ノンリサーチ・キャリアパス一例として、弁理士という職業について、まだ歩み始めたところではございますが、大学・大学院での研究、弁理士という道を選択した動機、現在の業務内容、そして今後のキャリアプランの展望を含めて、ご紹介しようと考えております。

これからキャリアを築かれる皆様の一助となれば幸いです。

要旨

自身は、幼いころから、大学に進学すること、在学中にボランティア活動に従事すること、修士課程へ進学するというパス(進路)は明確していた。修士課程後のキャリア(職業)は、修士の間に考える予定であったが、研究と生活に追われ、十分に考えられたかはいささか疑問が残る。だが、将来達成したいものへの展望から現在の職を選んだことは間違いない。その達成したいものとは、研究という側面と家族という側面にあった。現在、会社で研究開発に従事して3年目。仕事内容紹介とともに、大学での経験の結びつきを振り返ることで、みなさんのキャリアパス(キャリアプラン)の参考となればと思う。

進路選択は、ゴールではなく、自身の将来を築くための出発点、あるいは経過点にすぎない。その選択は、将来の後押しをするきっかけになる場合もあれば、障害となる場合もある。そのような、影響力のある重要な選択をするにあたり、本講演中または後に、今みなさんの考えているキャリアパスを今一度書き上げ、本当にそれで納得できるかを心の中で深く考えてほしい。

- ・自分は将来何を達成したいか？
- ・なぜそれを達成したいか？
- ・達成するにあたり、何をすればよいのか？
- ・今、自分のキャリア(生涯の仕事・経歴)に成功をもたらすためのパス(方向)は？

将に來る時へ、助走がよきものとなるようにと祈る。

要旨

一般的に理系技術職は学部卒よりも院卒の方が有利とされているが、女性の場合そもそも就職内定は厳しい状況にあり、大学院に行くとともに厳しくなるという論調があった。私は化粧品の研究開発職に就きたいと思い、大学3年の12月に就職活動を始めた。しかし化粧品業界は言うまでもなく女性の間で競争率が高い。自分自身、特段アピールできるようなこともなく、プレゼンが上手なわけでもない。化学メーカーも受けたが、内定をもらえず、結局大学院へ進学した。

2年後もやりたいことは変わらなかったが、とにかく就職先を決めることに必死で色々な業界の門を叩いて選択の幅を広げた。幸いにも印刷会社から内定をもらうことができ、その時点で就職活動を終えた。入社後は半導体の研究開発に携わった。その後転職を経て、現在は電気メーカーで半導体の技術開発職として働いている。学生時代に思い描いていた将来像とはかなりギャップがあるが、総合的にみて満足度は高い。たとえ苦手なことでも努力次第で自分の強みに変え、仕事で充実感を得ることができると実感した。

夢を追い求めてキャリアを形成していくのは素晴らしいし、羨ましいとも思う。しかし現実を見つめ、特にこの就職氷河期においては、視野を広げて新しい業界・業種に足を踏み入れてみることも選択肢のひとつである。